

TJFの事業

天理大学の朝鮮語科教員免許取得講座

昨年11月、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(以下<ネットワーク>)の第2回全国研修会が鹿児島で開催されました(TJFニュース14ページ参照)。出席者のなかに、2001年と2002年の夏、天理大学の朝鮮語科教員免許取得講座を受講した「戦友」9名がいました。

そのひとりが見せてくれた天理大学発行の単位修得証明書(各年度1枚)には、「上記の者は、平成13/14年度天理大学朝鮮語科教員免許取得講座(文部科学大臣認定13/14……)において、下記のとおり修得したことを証明する」とあり、免許法施行規則に定める科目区分・開設科目・単位数が記してあります。免許状の種類欄には、「中一種免」「高一種免」と記されています。

免許法施行規則に定める科目区分	開設科目	単位数
朝鮮語学	朝鮮語学概論	4
異文化理解	朝鮮史	4
教育課程及び指導法に関する科目	朝鮮語科指導法1	2
教育課程及び指導法に関する科目	朝鮮語科指導法2	2
朝鮮文学	朝鮮文学概論	4
朝鮮語コミュニケーション	朝鮮コミュニケーション論	4
異文化理解	日朝交流史	4

「戦友」のひとり、方政雄(パン・ジョンウン)さんは、2年間に及んだ天理大学の講座を振り返って、<ネットワーク>のメールマガジン(2002年10月)に次のように書いています。

<ネットワーク>が避けて通れない課題として教員免許取得問題が持ち上がったのは2000年3月であった。これを実現するためのプロジェクトチームを中心に可能性を探り、多くの人の努力によって天理大学の講座が実現の運びとなり、今2年をかけ無事終えることができた。<ネットワーク>の願いに誠意をもって対応して下さった天理大学関係者の英断に今一度感謝のことばを申し上げたい。

受講生31名が2年間の講座を終え、朝鮮語科教員免許を取得する運びとなる。決して少なくない人数である。日本の教

育界にかつてなかった画期的な出来事である。二夏、延べ36日間、寝食を共にし1日約8時間の集中講義を受けた全国の仲間たち——誰とはなく「戦友」と呼び合っていた。このつながりをもとにする「戦友」の活躍が期待される。

「戦友」たちの何名かが、すでに朝鮮語の教員免許を取得しています。藤村直哉さん(大阪府)は、昨年10月24日に大阪府教育委員会に「高等学校教諭1種免許状朝鮮語」を申請して受理されました。その受理票に記載された「授与見込年月日」(平成14年10月26日)から朝鮮語の授業を担当できるようになりました。教員免許状の授与権者は各地域の教育委員会であり、地域ごとに授与の手続き等が異なりますが、大阪府は全国で最もスピーディーに対応しています。

天理大学の講座を受講した三十数名のなかで、すでに他の教科の教員免許を持っている人だけが朝鮮語の教員免許を取得することができ、2002年度末までに、大阪府・鹿児島県・佐賀県・兵庫県・広島県など、西日本地域の「戦友」20名が朝鮮語の教員免許を取得する予定です。今給黎俊伸さん(鹿児島県)は、この講座と並行して佛教大学の通信講座(中国語)を修了し、朝鮮語と中国語の教員免許を併せて取得する予定です。

■天理大学の夏期集中講座とネットワーク運動

<ネットワーク>の事業は、地域ブロック間の連携と日本と韓国の大学や機関との連携を深めながら多角化しています。<ネットワーク>が天理大学に働きかけて実現した朝鮮語科教員免許取得講座は、<ネットワーク>が運動としての自覚を持つきっかけとなるとともに、現職教員研修の一つのモデルを提供したと考えています。

次ページの表に掲げたとおり、<ネットワーク>運動の基点は、TJFが1997年6月に着手した高等学校における韓語教育調査にあったと考えられます。以来、TJFの支援を受けながら事業展開しています。

■ネットワーク運動の関連事業

1997年 6月	高等学校の韓国語教育調査に着手(TJF)
1998年 6月 8月	調査の中間報告書発行(TJF) 第1回高等学校韓国語教師研修会(韓国文化院)開催[3日、東京]
1999年 6月 8月	韓国語教育調査の報告書発行(TJF) 第2回教師研修会(韓国文化院・TJF)開催[3日、東京] 高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク設立
2000年 2・3月 3月 8月 9・10月 10月	ネットワーク南・東日本ブロック、メーリングリスト運営開始(西日本は8月) 韓国語の教員免許プロジェクト発足 第3回教師研修会(韓国文化院・TJF)開催[3日、東京] 天理大学と神田外語大学に韓国語の教員免許取得の講座開設を要望 韓国語教育シンポジウム(韓国語教育研究会)企画参加[1日、東京]
2001年 3月 7月 7・8月 11月 12月	『高校生のための交流語彙集』試験本発行 日韓青少年交流ワークショップ(日韓文化交流基金)企画参加[2日、神奈川] ネットワーク南日本ブロック、ホームページの試験運用開始 天理大学と神田外語大学の講座、開講[2週間、奈良・東京] 日韓隣語教育ワークショップ(国際交流基金)企画参加[1日、埼玉] 第1回ネットワーク全国研修会開催[3日、大阪] 高校生の韓国訪問プログラム(韓国国際教育振興院)企画参加[5日、ソウル] 日韓青少年交流ワークショップ(日韓文化交流基金)企画参加[2日、神奈川]
2002年 1月 3月 7月 7・8月 8月 11月	大学入試センター試験外国語科目に「韓国語」導入(大学入試センター) 『好きやねんハングル』試用版発行 高校生の韓国訪問プログラム(韓国国際教育振興院)企画参加[5日、ソウル] 天理大学と神田外語大学の講座、開講[2週間、奈良・東京] 韓国語教師研修プログラム(韓国国際交流財団)企画参加[2週間、ソウル] 第2回ネットワーク全国研修会開催[3日、鹿児島]

()内は主催または共催団体名、[]内は会期と開催場所

1997年以降の全国の高校教師、<ネットワーク>全体またはブロック単位の自主事業、他団体の事業で<ネットワーク>が企画段階から参加、協力しているものは上表のとおりです。これらの事業の総和こそ<ネットワーク>運動なのですが、そのなかであって、天理大学の講座はたいへん重要な位置を占めています。以下にその経緯を記し、運動の軌跡をたどってみたいと思います。

■天理大学の講座開設に至るまでの動き

2000年2月、熊本で開かれた南日本ブロック交流会で、韓国語の教員免許を取得する方法はないだろうかという問題提起が行われました。多くの教師が韓国語の免許を持たないで教えている事情があるからです。その後、この問題の解決策を見出そうとして何人かに相談しました。そのひとり、佐藤亨先生(東京都)から大学が実施する現職教員の再研修講座という示唆を受けました。

3月初め、これをヒントに韓国語の教員免許を取得するための講座開設をめざすプロジェクトを、<ネットワーク>内に立ち上げました。2年後の実施をめざして動き出したものの、まったく開講の見通しは立っていませんでした。暗中模索の中、長年臨時免許で韓国語を教えてきた講師、社会科や国語などの免許で韓国語を教えている教師などが各地の教育委員会に足を運び、それぞれ免許を取得する方法を探りました。

こうして集めた情報に基づいて教員免許の問題を検討する会議を開催しようとしていた1ヵ月前、平木實先生(天理大学教授)から高等学校の韓国語教育事情について問い合わせをいただきました。不思議な縁を感じながら、2000年8月の教師研修会とそれに続いて開催される会議に出席をお願いしました。研修会の期間中、全国から集まった高校教師と寝食を共にされ、韓国語教育の現状を理解していただくことができました。

教員免許に関する会議の席上、平木先生は天理大学の講座開設に向けて努力することを確約されました。それがどれほど私たちを勇気づけたことでしょう。高校教員が韓国語の教員免許を取得するための講座実現に向けて、大きな一歩を踏み出すことができたのです。数ヵ月前、プロジェクトを発足したときには誰も予想しえなかった展開でした。9月にTJFと<ネットワーク>が講座開講の要望書を天理大学に提出、翌月には同じ趣旨の要望書を神田外語大学に提出しました。<ネットワーク>が他団体に働きかける運動が、こうして始まったのです。

2001年4月、同年夏から天理大学の朝鮮語科教員免許取得講座と神田外語大学の韓国語特別講座を開設することが正式に決まりました(国語・社会などの高等学校の教員免許を持つ者の場合、天理大学は2年、神田外語大学は3年で韓国語の教員免許取得に必要な単位を履修することができます)。両大学の韓国語の先生方をはじめ、学長や教務部の関係者のご協力によって開講が実現したのです。

教員免許取得に関わる講座開講の動きは中国語の関係者にも伝わり、神田外語大学と大阪外国語大学で同じ趣旨の中国語教師のための講座が開設されています。

*日本で「韓国語」「朝鮮語」「ハングル」「コリア語」などと呼ばれている隣国のことばの総称として、本稿では「韓国朝鮮語」「韓国語」という呼称を用います。